

一般質問通告書(平成 23 年 12 月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質問要旨
<p>1 9番 岩崎 治男 1 農作物等被害農家の救済対策について。 (町長)</p>	<p>本年は春先より異常気象に見舞われ、上富良野町の基幹産業であります農業の農作物に甚大な被害をもたらし、減収となりました。7月頃より降り始めたゲリラ豪雨は、上富良野観測史上まれにみる、総雨量200mmを超えるものでした。この集中豪雨が発生し、用排水や農道、農作物が多く被害を受けてしまいました。作物の減収により、平成24年度の再生産に必要な営農費が確保できない状況にあります。JAふらの農協上富良野支所は、これらの救済処置として農業経営緊急支援資金の申し込みを受け付けしています。</p> <p>町長は、農作物等の被害農家にどのような救済対策を考えているのか、伺いたい。</p>
<p>2 河川敷の立ち木伐採と、流亡土の撤去について (町長)</p>	<p>(1) 今年度は3度にわたる集中豪雨により、あちらこちらの大小河川で洪水が発生いたしました。北海道河川のベベルイ川についてであります。河川敷に自然に生え茂った立ち木が大きくなり、木が倒れて危険な状況になりました。</p> <p>川周辺の住民から北海道の管理ではあるが、町を通じて早期伐採、整備を行ってほしいとの声があり、その旨、町には伝えたが、何の回答もなく、関係者は、また、雨が降ったらと不安を募らせている。</p> <p>(2) デボツナイ川の流亡土について</p> <p>8月の集中豪雨により、東6線北20号の交差点付近が、水稻などの農作物が水没し、大きな被害を受けました。この原因は、まだ、改修の行われていないデボツナイ川の蓄積された流亡土が原因である。この件についても、町を通じて土木現業所の方に伝えて、早期の返答をいただくこととなっている。この2点につき、現況を聞きたい。</p>
<p>2 3番 村上 和子 1 中学生以下の医療費の無料化を (町長)</p>	<p>10月から中学生以下のお子さんのいる家庭では、子ども手当の支給額が下がり、今年度は所得税の扶養控除も廃止され、来年は住民税の扶養控除も廃止になり、復興増税も所得税の何%か支払うとなれば、家計はかなり圧迫される。</p> <p>来年度(24年度)より、中学生以下の医療費を全額補助し、無料化にしてはどうか。</p>
<p>2 町として雇用(働く場所)の創出をしなければ、町の活性化と人口減少の歯止めがかからないのでは。 (町長)</p>	<p>(1) 働く場所がなければ若い人は町外に流出し、50代から60代の人々の定着も難しくなってくる。企業誘致が難しいとなれば、働く場、雇用の創出を考えなくてはならないのでは。</p> <p>道の林業支援策等を利用して、林業就業支援講習など担い手育成をし、林業労働者を創出するののも一つの方法ではないか。</p>

	<p>(2) 起業を志す個人やグループを対象に事業計画を公募し、町としても後押しをするという考えはできないか。</p>
<p>3 食育の取り組みと特色ある学校給食。食器の整備を。 (教育長)</p>	<p>今日食べているものがいろいろな人の手を介してきて、それを有り難くいただくということが分からなくなってきているのではないか。 上富良野町の学校給食も期間を決めて、上富良野町を表した特色ある学校給食の取り組みと、給食に見合った食器の更新と整備を。</p>
<p>4 医療費を引き上げる動脈硬化の発症と進行を防ぐためにも、若い層の健康診断受診率を高めることが必要では。 (町長)</p>	<p>上富良野町でも健診の受診率は全道で3位ぐらいであるが、若い層の受診率は思うように進んでいないと考えられる。どのような状況にあるのか。 内臓脂肪型肥満が増加の傾向にあり、動脈硬化の若年化が進んでいるといわれるが、定期的に健康診断を受診することから、早期に動脈硬化の発症と進行を防ぐことができると思われる。例え再診となった場合でも、頸動脈はエコーで動脈硬化を把握できる。そういったことが医療費の抑制にも繋がるのではないか。</p>
<p>3 1番 佐川 典子 1 増加が予測される乳がんについて (町長)</p>	<p>「ピンクリボン運動」は乳がんの早期発見、早期検診の大切さを訴える世界規模の啓発活動です。毎年10月が乳がん月間です。日本の乳がん死亡率は1996年に胃がんを抜いて1位となって以来どんどん増え続け、20年前の年死亡者が5,848人だったのに比べ、昨年の死亡者数は1万2,455人で急増して来ています。 若い人の発症も見られる様に変化してきて、30代後半から急激に増えてきています。23年現在では、16人に1人が罹る病気になっている。早期発見で治る確率が高く、また手術を受けた時にも乳房の形を残せる乳房温存療法を選択できる確率も高くなるのです。 現在40歳から2年に1度としている有料検診を是非30代後半からの無料化に向け町独自の幅出しをし、少しでも若い世代から乳がん検診の大切さの啓発、早期発見を促すべきであると考えている。子供を生み育てる30代女性の身体と心の痛手を救う為の行政の施策としてどう考えるのか伺う。</p>
<p>2 協働のまちづくり課を新設しては！ (町長)</p>	<p>地域主権に向け、本町も平成21年4月1日自治基本条例が制定されて、今後はより住民の声を聞き、自分達のまちの事は自分達で考え、「自己決定と自己責任」が求められる時代がきている。自治基本条例がもっと身近に生かされる事や、町民への対応と対処などいま以上充実を図っていくべきだと思う。 4年前の12月定例会で今後の環境問題対策を図る為、環境推進班的なものを設けてはどうか？と質問したが、その後町民生活課は省エネルギービジョン、新エネルギービジョン策定、LED化、ヒートポンプ、住宅リフォーム助成など活発に対応して業務処遇も多忙である。今後のまちづくりを考えるとやはり大変である。窓口業務も時代の潮流に沿った柔軟な行政サービスが必要であり、高齢化に伴う様々なちょっとしたサービスの充実を推進すべきであると考えている。</p>

	<p>自治基本条例の（条例の見直し等）…第40条、わたしたちはこの条例の施行後5年を越えない期間ごとに、この条例が所期の目的を達成しているかを総合的に検討するものとします。とある。今後2年のうちに検討する事も含めて、協働のまちづくり課新設への町長の考えを伺いたい。</p>
<p>3 成年後見制度について (町長)</p>	<p>世界に類を見ない長寿社会国日本。今や「人生90年」の時代を迎えようとしています。上富良野町の高齢化率も25.66%となり、そのうち約600人が虚弱や寝たきり、認知症等の要支援・要介護の高齢者で推移し、増加しています。</p> <p>認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分でない方の本人の権利を守る援助者を選ぶ事で、本人を法律的に支援する制度が平成12年に制度化されました。将来の安心のため、自分で判断がつかない時が来た時の本人と家族のため、この成年後見制度は重要であり、認識しておかなければなりません。悪徳商法や不合理な契約をさせられ被害に合わない為に町民の財産や権利を守るため、今後町として町民への周知や、情報共有の観点から、どのようなスタンスを考えているのか伺いたい。</p>
<p>4 5番 金子 益三 1 住宅リフォームについて (町長)</p>	<p>平成23年度から始まった我が町の、住宅リフォームを行う際の補助について、近隣の町村よりも若干、使い勝手が複雑なために利用の件数が伸び悩んでいるとの意見が出されている。</p> <p>そこで次のことについて伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、現在の上富良野町で本事業に申し込まれて、採択になった件数はいくつか。 2、上富良野町の補助は、上限が20万円で事業費の1割であり、さらにエコポイントなどのものは工事費から除外されて、残りの部分が補助対象となっている。このことによって、少額のリフォームでは補助金の額が非常に小さくなり、自己負担にかかわる部分が大きくなる。このことの改善は行う考えは無いか。 3、近隣町村は、すでに申し込みが当初の予算を大幅に超えて、現在補正予算を設けて対応を図る自治体もあるが、上富良野町では今後申し込みが増加した場合に、追加措置は行う考えがあるか。 4、すべてのリフォームを対象にする必要は無いが、より多くの住民が利用できるように、補助率の改定、上限の引き上げなどの考えは無いか。 <p>今後の高齢化社会を迎え、在宅での介護や高齢者世帯、独居老人世帯が増加していくことに加え、昨今の厳しい経済状況を鑑みた時に改善できることは、すぐにでも取り組む必要があると考え、以上のことについてこれまでの経緯を含め町長の考え方、並びに今後における我が町の取り組み方について所信を伺う。</p>

<p>2 単位老人会の助成について (町 長)</p>	<p>近年の我が町における、高齢者の実情において、それぞれの住民会で地域の高齢者の皆さんが元気に、様々な活動を行っている。特に、住民会単位の老人会の活動は地域のボランティアにとどまらず、児童生徒の登下校時での交通安全の見守りや、地域防災活動、公園緑地の手入れなど、その活動には敬意を表すところである。</p> <p>さらに、老人会において地域の福祉を推進すべく、ふれあいサロンの開催やお年寄りの声掛け、スポーツや文化芸能を通じての健康づくり活動など、もはや地域の必要不可欠な団体になっている。そこで、今後もその活動をより活発に行え、さらに促進させるために次のことを伺う。</p> <p>1、現在、社会福祉協議会を通じて単位老人会に補助と、町からの補助がある。どちらも老人クラブ連合会に所属していないともらえない補助であるが、後発の老人会や、現在組織を結成しようとしている地域では、立ち上げの準備などに相当の資金援助も必要である。これらの地域も含め、設立準備支援金のような単年度補助の考えは無いか</p> <p>2、現在の補助は、町から均等割で3万円、会員一人あたり300円で補助がされている。さらに社会福祉協議会からは均等割5千円と会員一人あたり100円の助成が老人クラブ連合会に所属しているクラブに補助されている。今後の老人クラブの活動は、福祉の推進、災害などの緊急時の支援など、地域の重要な事柄について活動が期待されているので、助成金に関しては、町で一本化して増額する必要が求められている。今後、それらについて対応はあるか。</p> <p>3、「自分達の町は自分達で守る」「地域のことは地域で守る」とのスローガンで防災についての説明がある中、特に住民会での普段からの老人会活動を積極的に、また親密に行うことが望まれている。そのような中、出来るならば25あるすべての住民会にそれぞれ単位クラブがあることが望まれる。現在、老人クラブ連合会の会長さんが鋭意その活動にご尽力されていて、多くの住民会長さんたちも協力しようと努力をしている。町としても、後発の老人会に対して、会員さんたちがスムーズに自分達のクラブに移行できるような指導が必要と考えるが、それらの指導について町が主体となって行うか</p> <p>以上について、町長の所信を伺う。</p>
<p>3 白銀荘の洗い場改修について (町 長)</p>	<p>近年、エコ改修を行った吹上温泉白銀荘は、上富良野町の観光地、十勝岳温泉郷において、人気の高い温泉である。町内はもとより、北海道内外から大勢の温泉ファンや、登山客にとって、再び訪れて頂ける素晴らしい施設である。特に山開きから夏山、さらに紅葉時期などは、大勢のお客様に訪れて頂いている。しかし残念ながら観光シーズンには女性風呂の洗い場が大幅に不足をしていることから、</p>

	<p>せっかく訪れていただいた観光客に満足いただけないまま、帰してしまっている現状である、そこで、早急に洗い場の増設が求められる。風呂にある打たせ湯は利用客が非常に少ない状況にあるので、そのスペースを有効利用して増設することが望ましいと考える。ふらの・美瑛の素晴らしい観光地で最もロケーションと泉質がよいと言われる十勝岳温泉郷の更なるホスピタリティーの向上と、地域住民の利便性のためにも必要と考えるが、町長の考えはいかがか伺う。</p>
<p>5 4番 米沢 義英 1 介護保険制度について (町長)</p>	<p>国は新年度から、社会保障と税の一体改革で、介護保険の利用者に新たな負担を求めようとしています。利用者からは、給付の抑制や利用料の負担増に対する不安の声が上がっています。次の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、介護保険事業計画策定においては、認知症支援、医療との連携、高齢者の居住施策との連携など、高齢者の実態を把握することが求められていますが、現状と課題について伺いたい。 2、要介護2以下の保険サービスの保険外し、要支援、軽度者の利用料の2割への引上げ、ケアプラン作成の自己負担化、一定以上の年収がある人への利用料の2割負担など、介護保険制度の改悪が盛り込まれているが、介護の利用をひかえるなどの懸念もされるが、町の対応について伺いたい。
<p>2 障がい者対策について (町長)</p>	<p>町においても、目や耳の不自由な方が生活しています。</p> <p>日常生活に必要な情報を入手するのは非常に大変だと述べています。道の広報は、テープや点字を活用していると話しています。町においても、目や耳の不自由な方が安心して生活できる環境を整えることが求められていると考えますが、次の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、目や耳の不自由な方に対して情報の提供をするためにも、町の広報などを点字、テープ、CD化にするなどの対応が必要では。 2、信号機に音響を設置するなど、横断歩道であることが分かるような対応が必要では。
<p>3 予約型乗り合いタクシーについて (町長)</p>	<p>予約型乗り合いタクシーの本行に向けて、利用者アンケートもされていますが、要望の多い内容について伺いたい。また、利用者からは、日曜、祝祭日の運行の要望も多く出されていますが、今後の対応について伺いたい。</p>
<p>4 光ケーブルの設置について (町長)</p>	<p>近隣市町村では、すでに光ケーブルの導入がされていますが、今後の町の対応について伺いたい。</p>
<p>5 見晴台公園について (町長)</p>	<p>見晴台公園の再計画においては、周辺住民の協力が必要とされるが、住民に対する説明はいつ実施されるのか、計画そのものを白紙に戻してはどうか。</p>

<p>6 学校の改築について (教育長)</p>	<p>上富良野小学校の改築が計画されていますが、次の点について伺います。 1、文科省の方針では、防災機能と新エネルギーの導入などが示されましたが、町の対応は。 2、現在、放課後スクールは、空き教室を利用して実施されていますが、場所の確保の対応は。</p>
<p>6 7番 中村 有秀 1 敬老祝い金の支給継続をすべきではないか (町長)</p>	<p>平成23年度上富良野町政執行方針の「穏やかに安心して過ごせる暮らし」づくりの項で、現行の「敬老祝い金制度」については、高齢者を取り巻く環境の変化とともに、ニーズが多様化している現状を受け止め、敬老祝い金制度などの見直しを図り、高齢者が真に必要なとする施策に反映するよう検討するとされています。</p> <p>敬老祝い金の支給は、高齢者の皆様が人生の節目としての喜寿(77歳)2万円、米寿(88歳)3万円、白寿(99歳)5万円は大変喜ばれているとともに感謝されております。また、節目を迎えようとしている高齢者の皆様は心待ちに期待をしております。</p> <p>上富良野町の発展を支えていただいた功勞を感謝し、ご長寿を祝う立場から敬老祝い金は継続すべきと考えるが町長の所見を伺います。</p> <p>(1)平成24年度から平成30年度までの、喜寿、米寿、白寿を迎える予定該当者数を年度別に (2)平成24年度から敬老祝い金制度の見直し内容を具体的に (3)「高齢者が真に必要なとする施策に反映」とはどのような施策を検討されているのか明らかに</p>
<p>2 組織機構の見直しの推進状況は (町長)</p>	<p>平成23年度の町政執行方針で「行政組織のあり方は、組織が最大限に発揮されるよう職員個々の資質向上に向けた取り組みとあわせて、行政機能が効率的・効果的に発揮されるよう組織機構改革を含めて、不断の見直しを行い、真に町民の皆様の期待に応え得る組織と進化するために努力してまいります」あわせて「町政運営改善プラン23・実践スケジュール」にも具体的に進行実践スケジュールが記されているが、現在の推進状況は具体的にどうなっているのか伺う。</p>
<p>3 一般質問等のその後の措置状況について 上富良野中学校グラウンド及びタータントラック整備は (教育長) 道道291号吹上上富良野線の街路灯設置は (町長) 中央コミュニティ広場及び町営駐車場のフェンス塗装塗り替えについて (町長)</p>	<p>(1)上富良野中学校グラウンドの整備とタータントラックの設備について、平成22年12月及び平成23年3月定例会(同僚議員)にて伺い、「グラウンド整備は優先度が高いので、実施計画で位置付けて取り進める」との答弁だったが、今後の措置状況は。 (2)道道291号吹上上富良野線の街路灯の増設について、平成22年12月定例会で質問し、「必要性を認識しており、早期に道に要望する」との答弁であったが、その後の道への要望を含めどのような状況になっているのか伺う。 (3)平成22年11月9日開催の第1回町議会報告会にて、地域の課題として提出されたが、町の回答は「計画的に進める」であったが、「四季彩のまち」にふさわしい駅周辺の環境整備を早急に進めるべきと考えるが、整備計画の実施年度を伺いたい。</p>

<p>7 6番 徳武 良弘 1 防災対策について (町 長)</p>	<p>我が町の防災対策は十勝岳などを抱えていて、非常に重要な位置付けにあると思います。そこで、先の決算委員会での答弁で、備蓄食料250食とのことでしたが、現在はどうなっているのか。また、避難所における必需品は何なのか具体的にお伺いしたい。</p>
<p>2 観光に対するビジョンについて (町 長)</p>	<p>町の観光政策について、日の出公園を重点において、進めるべきだと考えるが、町長としてはどのようなビジョンを持って臨むのか、例えば10年スパンぐらいの政策を持って臨むべきだと考えるが、具体的に長期戦略を持ちあわせているのかどうかお伺いしたい。</p>
<p>8 10番 一色 美秀 1 教育費の増額について (教育長)</p>	<p>これからの町づくりに必要な3つのキーワード、子ども 文化 全員野球 「人材を育て、誇れる文化をつくる。これに全員野球で取り組む」人を育てることは10年、20年のスパンではなく、50年100年の計画が必要である。 これから町の将来を背負って立つ子どもたちの教育に対して、わが町の財政支援はまことに少ない。そこで、次の2項目について質問いたします。</p> <p>1 特別支援学級補助員配置の増員を 障害や様々な問題を抱える児童生徒の適切な支援を行うために、全ての学校に補助員を配置し、児童生徒の個々のニーズに柔軟に対応すべきと考えるがどうか。</p> <p>2 幼・保・小・中・高連携促進事業について 未就学時から就学への円滑な引き継ぎが行われるよう、幼稚園・保育所(園)と小学校・中学校・高校が連携して、幼児と児童・生徒。保育士と教師・保護者の交流を通して相互の理解を深め、幼児・児童・生徒に豊かな心と生きる力を育むことを目的と考える。そのために教育委員会が積極的に関わり、交流を深めるとともに、そのために十分な財源の確保を図るべきと考えるがどうか。</p>